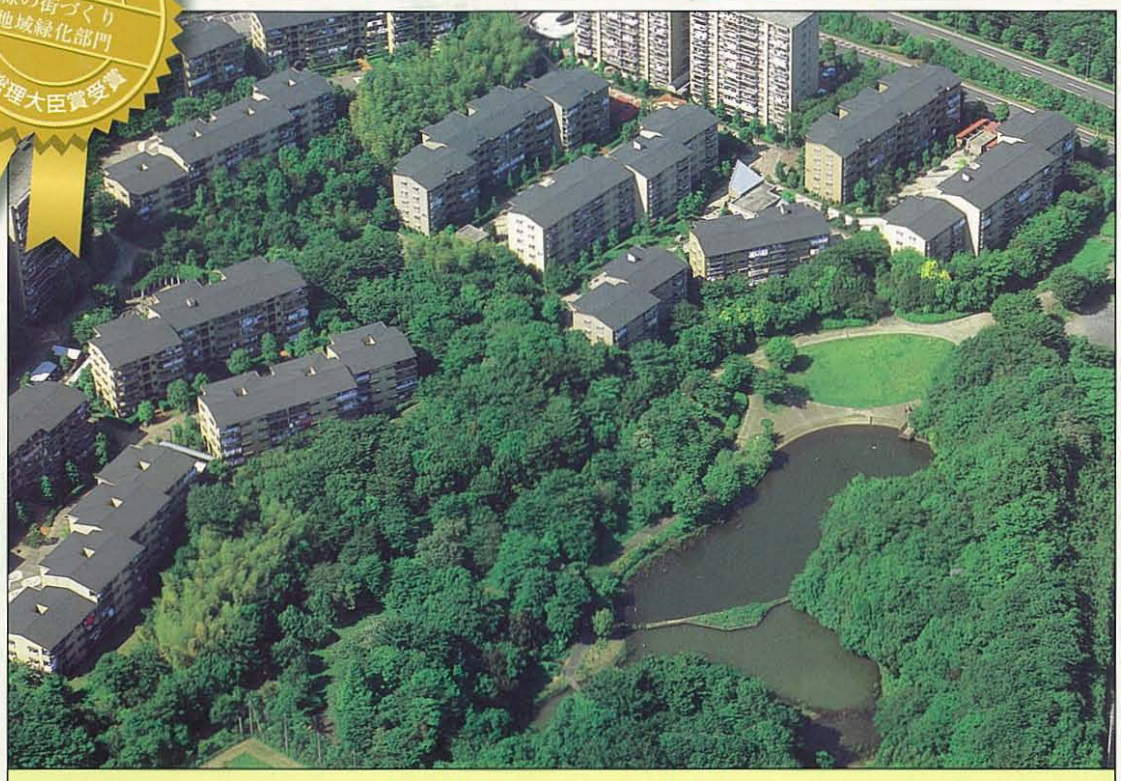
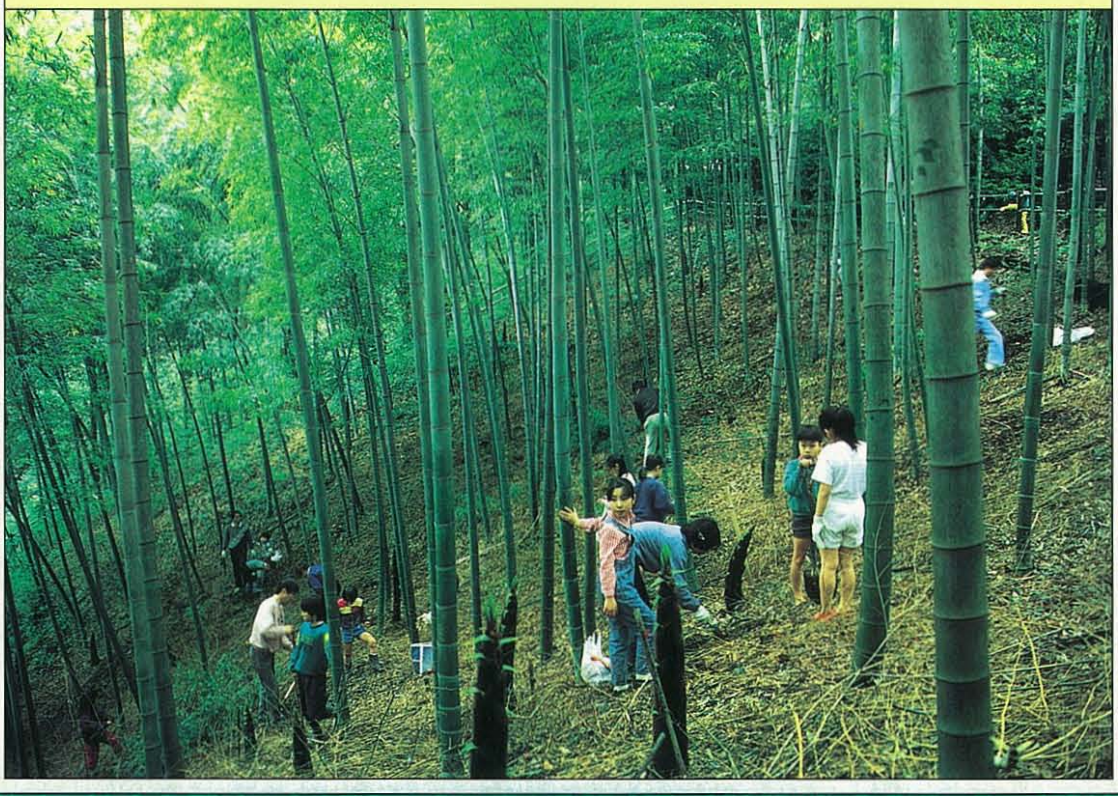
第16回 緑の都市賞
緑の街づくり
地域緑化部門
内閣総理大臣賞受賞



港北ニュータウン

GREEN MATRIX SYSTEM

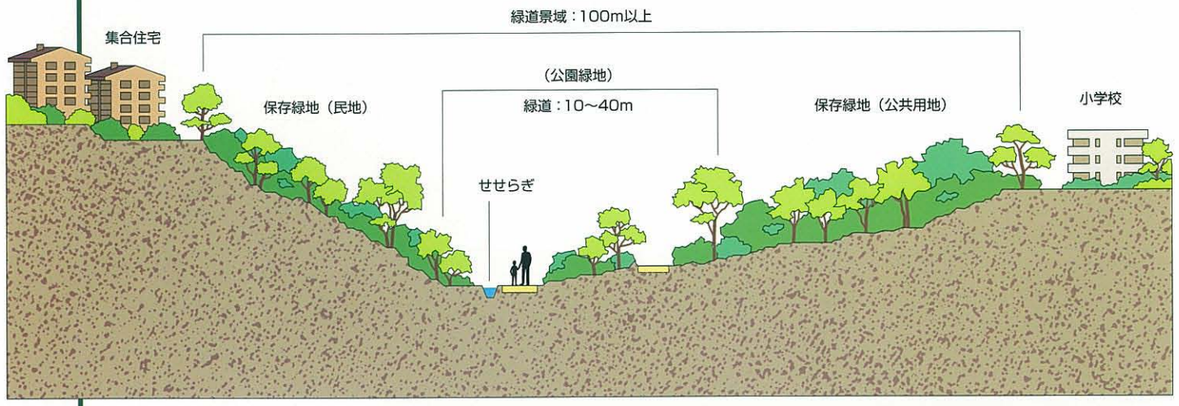
グリーンマトリックスシステムによる 緑の保全と活用



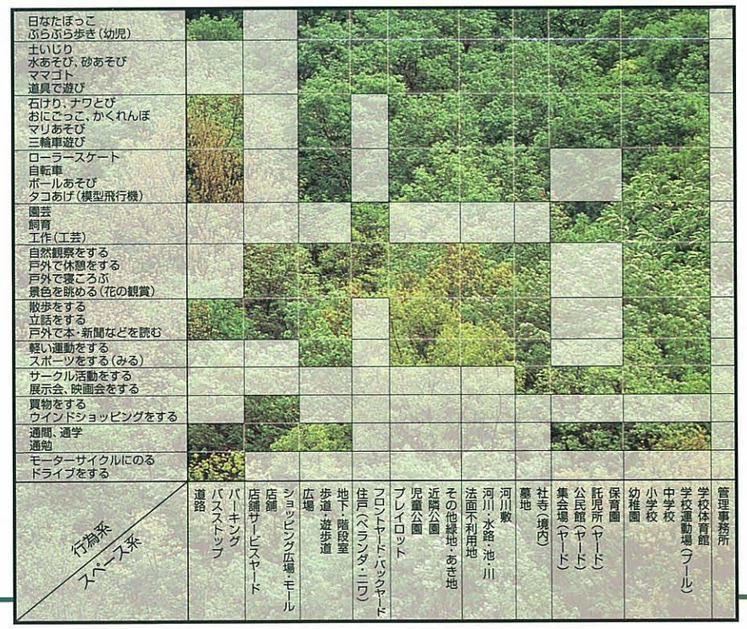
Green Matrix System

港北ニュータウンのオープンスペース計画

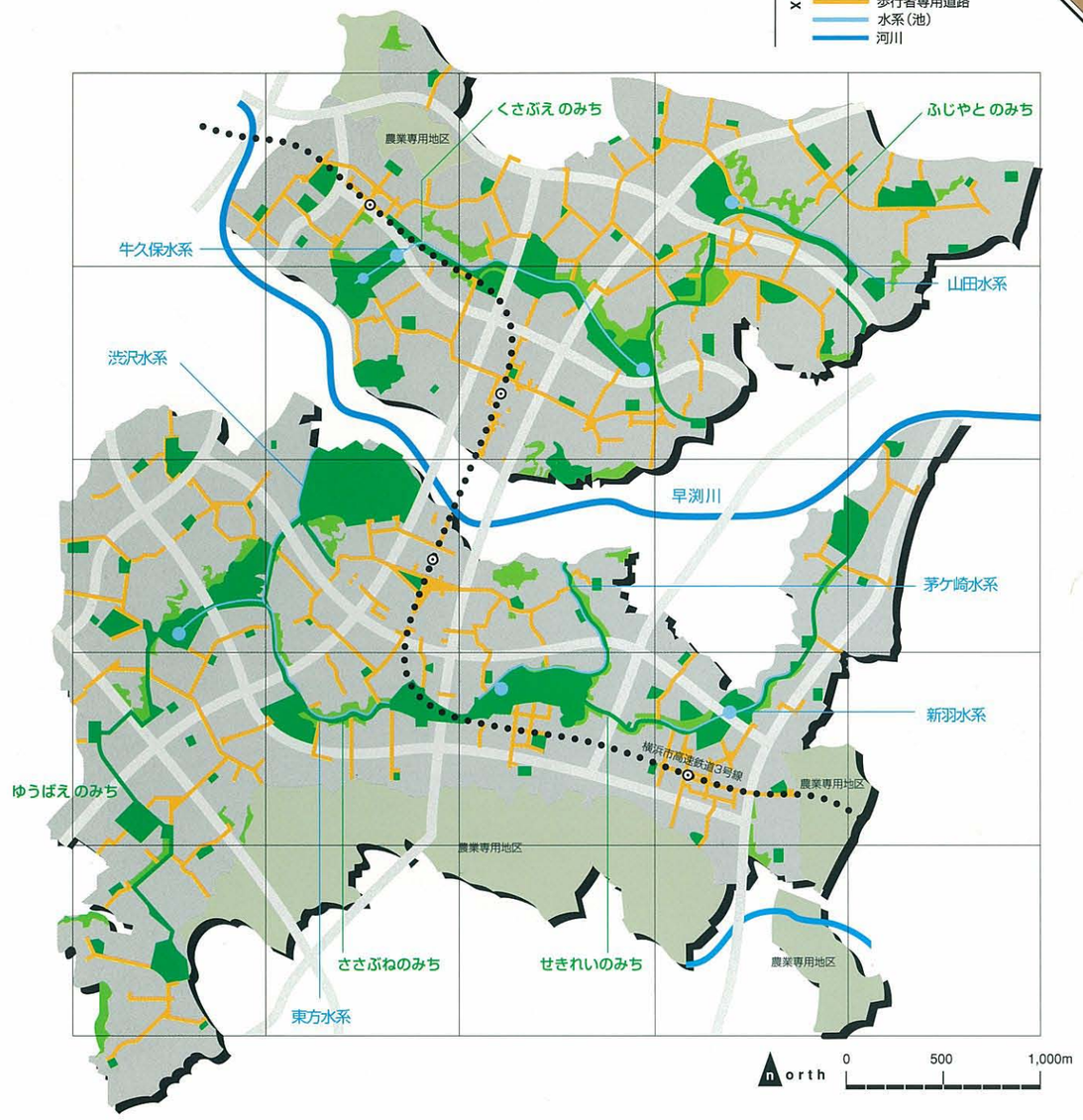
港北ニュータウンでは、「緑の環境を最大限に保存し、ふるさとをしのばせるまちづくり」を基本方針に昭和40年代から先進的なまちづくりを進めてきました。
その基本となる計画が、現況の緑の保全を図ると同時に、公共、民有の緑を積極的に融合させた「グリーンマトリックスシステム」です。
グリーンマトリックスシステムとは、地区内の緑道を主骨格とし、集合住宅、学校、企業用地等のスーパーブロックの斜面樹林や屋敷林など民有の緑を、公園緑地等の公共の緑と束ねて、連続させ、さらに歴史的遺産、水系などとも結合させて再構築し、地区全体の空間構成の要としたシステムです。
軸となる緑道は地区全体に５本、幅員は10～40mで斜面緑地を含めると幅100m以上の緑のベルトが形成されている区域もあり、保存緑地、広場・学校、せせらぎ・池、それを縫うように歩行者専用道路がネットワークされ、人間優位の歩行空間を追及して生まれた、人間性回復の街にふさわしい空間構成となっています。



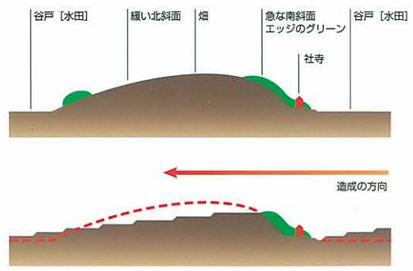
マトリックスとは、スペース系と行為系の多様な相関（マトリックス）を意味しています。
ニュータウンに存在するスペースを一定としたとき、縦軸に行為系、横軸にスペース系をとって、行為が最大のスペースを利用しうるシステムを追及したもので、グリーンマトリックスに包含された場（スペース）は、各年令層の生活圏と関わりながら、さまざまな複合的な使われ方（行為）を生み出しています。



グリーン マトリックス システム



地区内に入りこんでいる谷戸沿いの比較的急な南斜面地には、裾部の民家周りに屋敷林や社寺林が存在し、港北の農村の原風景をとどめていました。そこで、南斜面の植生と山裾の集落を保存し、稜線から北側に伸びるなだらかな耕地を切り土し、谷を埋めて住宅地とし、保存された植生と対面する斜面状の緑道を配置しました。



Natural Preservation Areas

保存緑地

グリーンマトリックスシステムを構成する大切な要素が、クヌギ・コナラなどの二次林を最大限に保全担保する、民有の保存緑地です。
開発前に低地の水田と丘陵地の畑地の間にあった"雑木林"や"屋敷林"には郷土の豊かな緑が残され、「ふるさとをしのばせるまちづくり」を実現する上で重要な保存の対象となっていました。
土地利用計画にあたっては、これらの緑を「保存緑地」として、公共の緑地と一体化し、より効果的に再編成する必要がありました。
そのため、保存緑地を守る法的な裏付けとして、横浜市の「緑の環境をつくり育てる条例」第９条を適用することとしました。
これによって所有者は、所有権を有しながら一定の規制を受ける一方で、税の軽減、奨励金交付などの特典措置が付与されています。

緑道と一体化し広い緑の帯を形成する斜面緑地

研究所の庭園として　美しく管理された緑

里山の風景を残す竹林も研究所の保存緑地

Streams

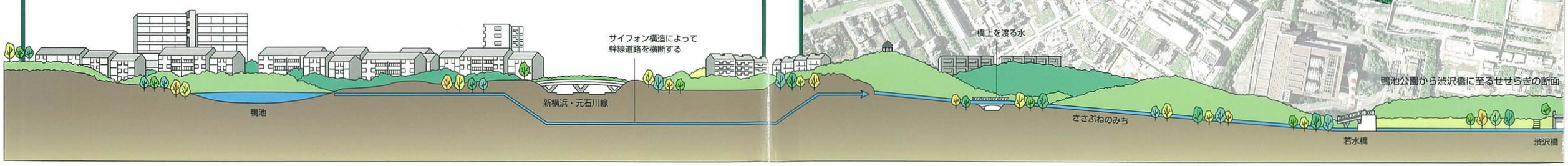
せせらぎ

谷戸の景観を活かして計画された緑道には、斜面の保存緑地に加え、最も低い部分に「水」を流し、水と緑が一体となった谷戸景観の保存・再現が図られています。
この「水」の計画が「せせらぎ計画」で、ニュータウン内に、せせらぎの全長約８kmの6つの水系が設けられ、公園には池が配置されています。
計画の最大の特色は、自然の水循環により近づけたシステムとしたことで、自然湧水、自然流下の方式を採り入れました。
子供たちの遊び場、水学習の場、鳥や昆虫、水辺の植物の生息の場として、他に例をみない「水」の計画が実現しています。

鯉が放流され　散歩が楽しくなる清流と小径

自然林と水辺は　子供たちの格好の遊び場

安心して水遊びが楽しめる　芝生広場の水路



Parks & Green Routes

公園・緑道

港北ニュータウン内には、地域全域及び周辺地域を対象とした、自然公園的な性格の「総合公園」1ヵ所、自然の地形や植生を取り入れた「地区公園」4ヵ所、「近隣公園」15ヵ所、子供の遊び場としての「街区公園」65ヵ所の4タイプの公園および都市緑地2ケ所があり、それぞれの利用圏に応じて配置されています。
これらの公園の特色としては、公園面積の概ね50%が現況の樹林や既存の地形を活かした設計となっており、「水」と「緑」の調和した多様なレクリエーションの場の創造と同時に、生物環境の保全・育成の場の実現を目指しています。
これらの公園を、有機的につないでいるのが総延長約15kmの緑道で、小広場や休息ポイントなどが設けられ、沿道の表情や景観も、明るく広い散策路あり、雑木林を抜ける尾根道あり、せせらぎ沿いの小径、歴史のみちありと変化に富んだ構成となっています。

せせらぎ公園

茅ケ崎公園

大塚歳勝土遺跡公園

山田富士公園

Ecological Preservation Areas

生物相保護区

ニュータウン内には生物のために計画的に保全された自然地がいくつかあり、その中で、特に環境的に優れた3ヵ所を「生物相保護区」に指定し、一般的な利用者の立入を制限しています。生物相保護区は、特定の生物の保護ではなく、生態系としての生物相の保護を目的としたもので、その設置がニュータウン開発事業の中で推進されたことは大変意味深いものがあります。
開発前には普通に生息し、事業の初期段階には種類、量ともに減少傾向を示した生物が、ニュータウンの整備完了とともに回復し、自然環境へ回帰するための繁殖地となる場所、それが生物相保護区です。
いずれも、水に恵まれ、緑豊かな環境が維持された区域で、相互に緑道によってネットワークされ、この広い成育環境の中で、多様な生物の確かな回復が確認されており、今後の活用や管理がさらに重要な課題となっています。

湧水部をトンボ繁殖池として保全した鴨池公園の池

カワセミの営巣地 豊かな水量の御手洗池

生物相保護区の生物調査 セミナーも開かれる

Citizen Participation

市民参加のまちづくり

「市民参加のまちづくり」を開発理念の一つとした港北ニュータウンでは、公園緑地の整備・活用に際しても、市民参加による多様な展開を試みてきました。
その一つに、「港北ニュータウン方式」ともいえる、独自の市民参加方式による公園施設整備システムがあり、町内会、子供会、PTA等の参加によって、地域住民のコミュニティの核となる公園の整備が市民・行政一体となって実践されました。
また、質の高い自然環境を活用した生物・植物観察の集いなども、当初の行政主体から市民自らの企画・運営による活発で、継続的な活動へと育ってきました。
さらに、公園や住宅地内保存緑地では子供からお年寄りまで幅広いメンバーによる愛護会が結成され、日常的な清掃管理、自然林を活用したイベントの開催、生態的な植生管理などを積極的に行うなど、地域ぐるみの豊かな自然との共生が行われ、緑を仲立ちとしたコミュニケーションが形成されています。

コミュニティペーパーなどでさまざまな活動を呼びかける市民参加のまちづくりの記録

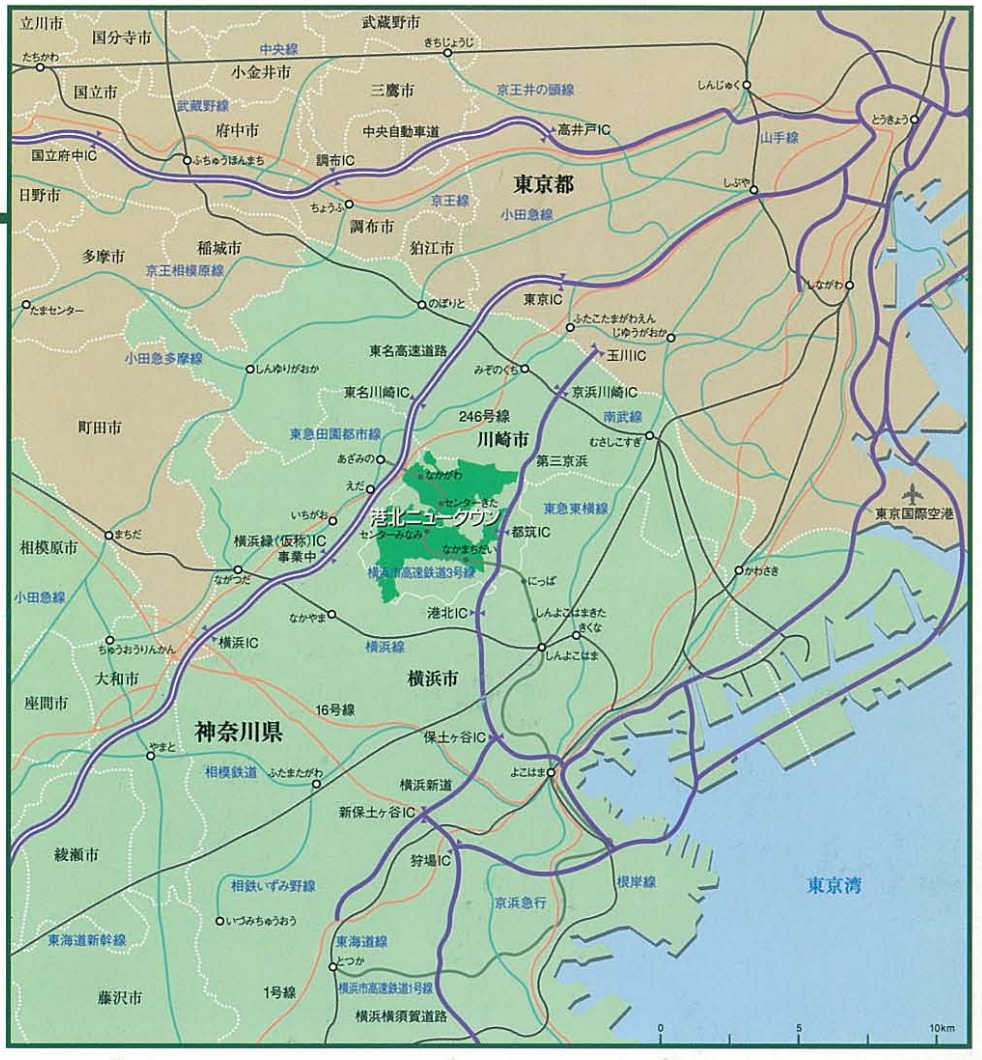
楽しみがいっぱいの自然を守る みんなの約束

アイデアを出し力を合わせみんなで創った公園

お年寄りと子供達の楽しい交流 どんど焼き

港北ニュータウンの概要
PROFILE OF KOHOKU NEW TOWN

横浜市の中心から北北西へ12km、東京都心から南西へ25kmに位置するこの地域には、なだらかな丘、美しい川と谷戸、雑木林、竹林等の良好な自然環境が残されていました。
昭和40年代、首都圏にあって、貴重なこの環境を保全し、かつ横浜市郊外部の都市化の流れと自然との調和を基本とした「緑の環境を最大限に保存するまちづくり」「ふるさとをしのばせるまちづくり」を目標に、新しいまち「港北ニュータウン」の計画・整備がスタートしました。
以来約30年、地域の自然・文化環境資源を最大限に保存し、新しいまちに体系的に再編成する時代に先駆けたオープンスペース計画の導入、横浜市北部の副都心となるべきタウンセンターの整備、新しい鉄道の開設など21世紀を指向した新しいまちづくりがいまここに着々と姿を見せ始めています。



港北ニュータウンにおける「市民参加街づくり」のあゆみ

	1 港北ニュータウンの動き	2 公園づくり	3 自然調査研究会	4 愛護会
1965年	・横浜市6大事業発表（1960）		・モルフォ生物	同好会の設立（1956）
1970年	・区画整理事業区域　事業決定（1969）			
1975年	・工事着手（1974）			
1980年	・事業推進連絡協議会発足（1976） ・せせらぎ公園(モデル公園として)完成（1980）			
1985年	・港北ニュータウン公園緑地整備計画方針（1981） ・第2地区第1次供用開始（100ha） 集合住宅第1次入居開始（1983） ・新横浜、元石川線開通（1983） ・日本造園学会シンポジウム（1985）	・牛久保西 ひかりがおか公園 ［牛久保町会・子供会］（1982） ・荏田南みのり公園 ［荏田南小学校・PTA］（1984）	・横浜市公害研究所生態調査開始（1981） （年4回 83、84、86の4年調査） ・第1回 地区学校懇談回（1983） ・第1回 自然環境保全研究部会スタート（1984）	・けやきが丘森林愛護会設立（1984）
1990年	・第1回ニュータウン祭り（1985） ・公園緑地最初の移管（1985）	・荏田南もも公園 ［荏田南5丁目町会・みずきが丘・けやきが丘自治会］（1987）	・第1回 自然教室（1986） ・第8回 地区学校懇談会（1988）	・鴨池公園愛護会設立（1986）
1995年	・地下鉄3号線開通（1993） ・換地処分公告（1996） ・第12回ニュータウン祭り（1996）		・第7回 自然教室（1992） ・第26回 自然環境保全研究部会（1993） ・ホタルプロジェクト懇談会（1995）	・鴨池フォーラム開催（1990） ・自然に学ぶ会設立（1992） ・ファミールグリーン会設立（1992） ・公団主催 第1回雑木林塾開催（1992） ・港北ニュータウン緑の会設立（1992） ・鳥山公園愛護会設立（1993） ・山崎公園ネイチャークラブ設立（1993） ・「緑の会」による雑木林塾開始（1994） ・早渕川をかなでる会設立（1994） ・トンボサミット開催（1994） ・横浜環境教育シンポジウム開催（1994） ・大原みねみち公園愛護会設立（1995） ・第2回タヌキサミット開催（1995）

住宅・都市整備公団　港北開発局

1996/11 (3,000 N)　Designed by RIV associates